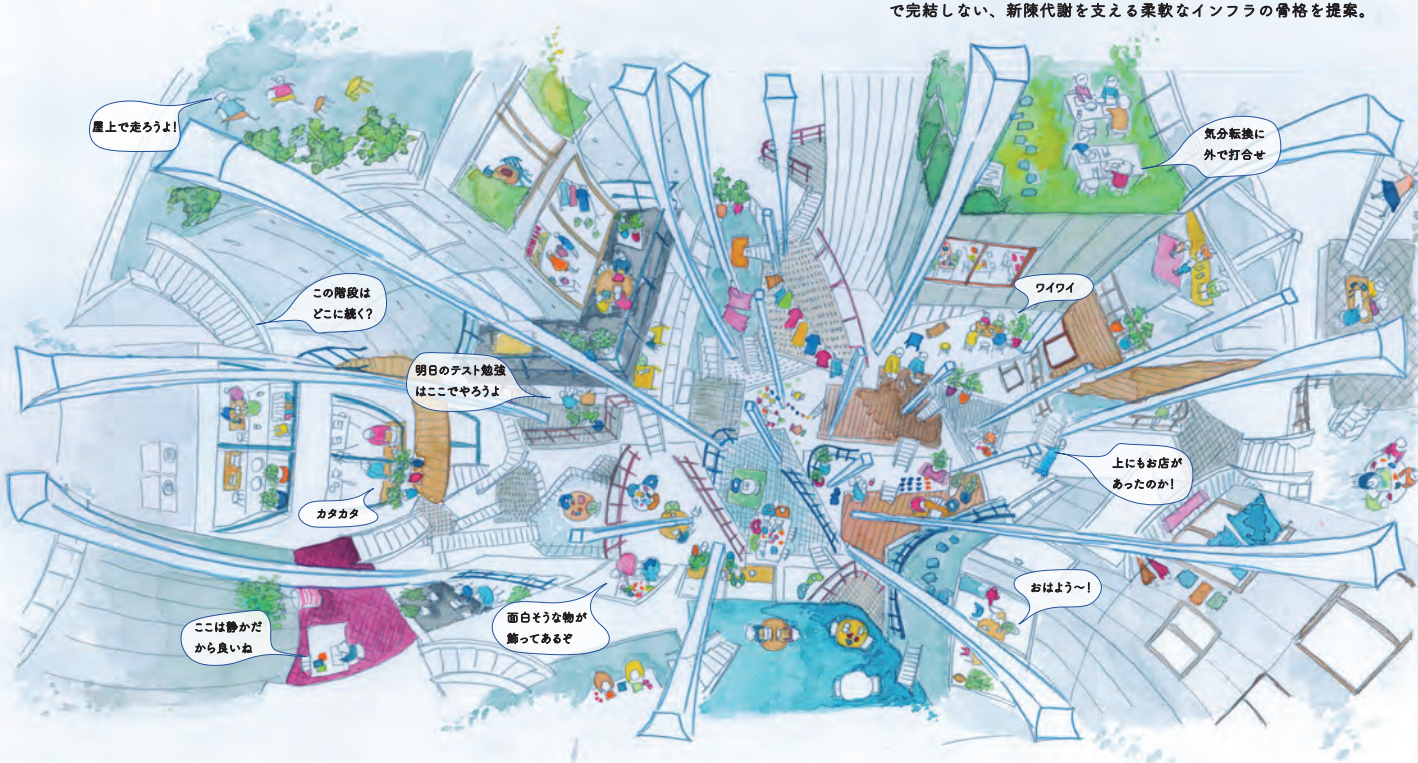
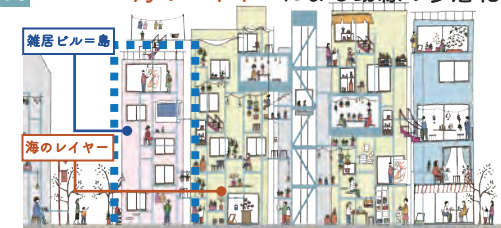


学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

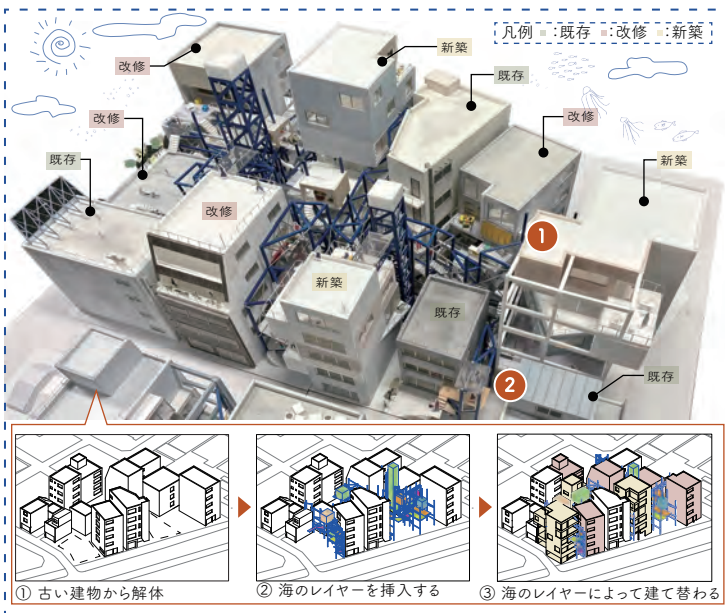
受賞年	2025年	
受賞タイトル	優秀賞	
区 分	Ⅳ. 都市ディスプレイデザイン	
フリガナ	ハヤシ ウブ	
制作者名	林 芽生	
フリガナ	トウキョウデンキダイガク ミライカガク ケンチクガク	
卒業時の大学 学部・学科	東京電機大学 未来科学部 建築学科	
フリガナ	ヒノ マサシ	職名
推薦者名	日野 雅司	准教授
フリガナ	ウミノアルサイタマ -サラチニシナイザッキョガイクサイセイ-	
作品名	海のある埼玉 -更地にしない雑居街区再生-	
概 要	海のある埼玉 - 更地にしない雑居街区再生 - 雑居ビル群を島と捉え、その隙間に島同士を繋ぐ海のレイヤーと呼ぶ鉄骨フレームを挿入。埼玉県大宮において「更地にせず残して再生する都市の在り方」として、ビル同士を新たな動線で接続し、建物単体で完結しない、新陳代謝を支える柔軟なインフラの骨格を提案。  雑居街区の隙間に海のレイヤーを挿入し、新陳代謝する都市の骨格を築く。 01 設計構想 都市の海の層の反転  地上階は賑やかな浅瀬のような空間で、高層は知る人ぞ知る店舗が潜む静かな深海のような空間が現れる。 02 敷地 開発によって変わりゆく大宮  内側には、人の営みや小さな風景も雑多に残る。 03 設計手法 海のレイヤーによる動線の多層化  個別の建物同士を立体的に接続し、屋上・上階利用の活性化	

制作者名	林 芽生
作品名	海のある埼玉 -更地にしない雑居街区再生-

【コンセプト解説】

04 提案 雑居街区再生のプロセス

既存建物の隙間を活用し、新旧の建物を同じ価値で扱いながら都市のインフラを形成する。



【上階のテナント利用の活性化】

① 海のレイヤーによって建物の裏側も正面になる

